(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第5056023号
(P5056023)
(45)発行日　平成24年10月24日(2012.10.24)　(24)登録日　平成24年8月10日(2012.8.10)

(51)Int.Cl.			F I		
B65D	5/54	(2006.01)	B65D	5/54	301A
B65D	5/66	(2006.01)	B65D	5/66	311B

請求項の数 1　(全 7 頁)

(21)出願番号　特願2007-8792(P2007-8792)
(22)出願日　平成19年1月18日(2007.1.18)
(65)公開番号　特開2008-174262(P2008-174262A)
(43)公開日　平成20年7月31日(2008.7.31)
審査請求日　平成21年10月19日(2009.10.19)

(73)特許権者　000002897
大日本印刷株式会社
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
(74)代理人　100096600
弁理士　土井　育郎
(72)発明者　永田　和仁
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
大日本印刷株式会社内

審査官　戸田　耕太郎

最終頁に続く

(54)【発明の名称】フリップトップ型カートン

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

胴部前板、胴部側板、胴部後板、胴部側板を折線を介して順次連設してなる胴部と、胴部の上部に設けられ、胴部後板との境界をヒンジ部として回動することにより胴部前板と胴部側板の一部に覆い被さる被せ蓋と、胴部の下部を閉じてなる底部とを有するフリップトップ型カートンであって、

被せ蓋は、胴部前板との間で折り返された前方繋ぎ片を介して連設された蓋部前板と、蓋部前板の上辺に折線を介して連設され、胴部後板の上辺に折線を介して連設した蓋部連結板に貼り合わされた蓋部天板と、蓋部前板に連設するとともに胴部側板との間で折り返された側方繋ぎ片を介して連設された蓋部側板とから構成されており、

前方繋ぎ片には第1の弱め線が途中に未形成部分を残した状態で全幅にわたって形成されるとともに、側方繋ぎ片と胴部側板との連設部分には第2の弱め線が形成されており、前方繋ぎ片は第1の弱め線より蓋部前板寄りの部分で蓋部前板と貼り合わせられ、側方繋ぎ片は蓋部側板と貼り合わせられており、

前方繋ぎ片における第1の弱め線の未形成部分には、第1の弱め線が途切れた2つの端部を起点とする切込線により胴部前板に向けて突出するジッパーがその半円状の先端部が蓋部前板から露出する位置まで設けられ、露出したジッパー部先端の切込線にはその一部に繋ぎが残されており、

蓋部前板と前方繋ぎ片の境界である折線のところに形成された円形孔により被せ蓋の前面下部に半円状の切欠が形成され、その切欠がジッパーにおける半円状の先端部と合わさ

って円形を呈するようになっており、

ジッパー先端部を押し込んで切込線の繋ぎを破断した後、被せ蓋を胴部後板との境界をヒンジ部として回動することで第１の弱め線及び第２の弱め線を切断して開封することができ、開封後に被せ蓋を前方に倒すと、第１の弱め線で切断された前方繋ぎ片が引っ掛かることによって被せ蓋が係止されるようになっていることを特徴とするフリップトップ型カートン。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、厚紙からなるカートンの技術分野に属し、特に、ヒンジによって回動する被せ蓋を有するフリップトップ型カートンに関するものである。

【背景技術】

【０００２】

従来より、一枚の板紙を組み立てて形成される種々のカートンが利用されているが、開封した後で再封可能なものとして、ヒンジによって回動する被せ蓋を有する所謂フリップトップ型のカートンが使用されている。その中でも、被せ蓋の前板を持ち上げることにより、被せ蓋の前板の裏側に折り込まれている折返し片が切断されて開封するタイプのフリップトップ型カートンがあり、このタイプのカートンは、開封後に被せ蓋を前方に倒すと、被せ蓋の裏面において、切断された折返し片が引っ掛かることによって被せ蓋が係止して蓋がされるようになっている。

【特許文献１】実開昭５０－６７０１５号公報

【特許文献２】特開平１１－７９２４２号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００３】

従来のフリップトップ型カートンのうち、上記したような係止手段により再封性を有するタイプのカートンは、開封後に蓋がされてしまうと、外観からは開封されたか否かを確認することができない。したがって、改ざん防止のためにはシール貼りやシュリンクが必要であった。

【０００４】

本発明は、このような問題点に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、改ざん防止機能を付与したフリップトップ型カートンを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【０００５】

上記の目的を達成するため、本発明のフリップトップ型カートンは、胴部前板、胴部側板、胴部後板、胴部側板を折線を介して順次連設してなる胴部と、胴部の上部に設けられ、胴部後板との境界をヒンジ部として回動することにより胴部前板と胴部側板の一部に覆い被さる被せ蓋と、胴部の下部を閉じてなる底部とを有するフリップトップ型カートンであって、

被せ蓋は、胴部前板との間で折り返された前方繋ぎ片を介して連設された蓋部前板と、蓋部前板の上辺に折線を介して連設され、胴部後板の上辺に折線を介して連設した蓋部連結板に貼り合わされた蓋部天板と、蓋部前板に連設するとともに胴部側板との間で折り返された側方繋ぎ片を介して連設された蓋部側板とから構成されており、

前方繋ぎ片には第１の弱め線が途中に未形成部分を残した状態で全幅にわたって形成されるとともに、側方繋ぎ片と胴部側板との連設部分には第２の弱め線が形成されており、前方繋ぎ片は第１の弱め線より蓋部前板寄りの部分で蓋部前板と貼り合わせられ、側方繋ぎ片は蓋部側板と貼り合わせられており、

前方繋ぎ片における第１の弱め線の未形成部分には、第１の弱め線が途切れた２つの端部を起点とする切込線により胴部前板に向けて突出するジッパーがその半円状の先端部が蓋部前板から露出する位置まで設けられ、露出したジッパー部先端の切込線にはその一部

に繋ぎが残されており、

蓋部前板と前方繋ぎ片の境界である折線のところに形成された円形孔により被せ蓋の前面下部に半円状の切欠が形成され、その切欠がジッパーにおける半円状の先端部と合わさって円形を呈するようになっており、

ジッパー先端部を押し込んで切込線の繋ぎを破断した後、被せ蓋を胴部後板との境界をヒンジ部として回動することで第１の弱め線及び第２の弱め線を切断して開封することができ、開封後に被せ蓋を前方に倒すと、第１の弱め線で切断された前方繋ぎ片が引っ掛かることによって被せ蓋が係止されるようになっていることを特徴としている。

【発明の効果】

【０００６】

本発明のフリップトップ型カートンは、胴部前板にあるジッパーの先端部を押し込んで切込線の繋ぎを破断した後、被せ蓋を回動させることで第１の弱め線及び第２の弱め線を切断して開封するので、開封後に再封した場合に正面に孔が開くことから、一度開封されたものかどうかを一目で判断することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【０００７】

次に、本発明の実施の形態について図面を参照しながら詳細に説明する。

【０００８】

図１は本発明に係るフリップトップ型カートンの一例を示す斜視図、図２は図１のフリップトップ型カートンを形成するブランクの平面図である。

【０００９】

図１のフリップトップ型カートンＡは四角柱状の胴部とフリップトップ型の被せ蓋が一体となったもので、図２に示すブランクＢを組み立てて作製される。

【００１０】

ブランクＢは、図示のように、胴部を形成する糊代フラップ１１、胴部側板１２、胴部前板１３、胴部側板１４、胴部後板１５が折線ａ，ｂ，ｃ，ｄを介して連設されており、これらの上部に被せ蓋を形成する部分が連設されている。

【００１１】

被せ蓋部分は、胴部前板１３と略同幅の蓋部前板２１と、蓋部前板２１の上辺に折線ｅを介して連設された蓋部天板２２と、蓋部前板２１の両側辺にそれぞれ折線ｆ，ｇを介して連設した蓋部側板２３，２４と、蓋部側板２３，２４の上辺にそれぞれ折線ｈ，ｉを介して連設した折曲げ片２５，２６とからなっている。

【００１２】

胴部と被せ蓋部分との間には蓋部前板２１及び蓋部側板２３，２４とほぼ同じ高さの連結部分Ｚが設けられている。この連結部分Ｚは、胴部前板１３と蓋部前板２１の間に折線ｊ，ｋを介して設けられた前方繋ぎ片３１と、胴部側板１２と蓋部側板２３の間にそれぞれ第２の弱め線β、折線ｌを介して設けられた側方繋ぎ片３２と、胴部側板１４と蓋部側板２４の間にそれぞれ第２の弱め線β、折線ｍを介して設けられた側方繋ぎ片３３とで構成されており、前方繋ぎ片３１と側方繋ぎ片３２，３３の間にはそれぞれ六角形状の開口３１ａ，３１ｂが形成されている。

【００１３】

前方繋ぎ片３１には、第１の弱め線αが途中に未形成部分を残した状態で全幅にわたって形成されている。そして、その未形成部分には、第１の弱め線αが途切れた２つの端部を起点とする切込線γにより胴部前板１３に向けて突出するジッパー１３ａが設けられており、このジッパー１３ａの先端部はカートンを組み立てた時に、その半円状の先端部が蓋部前板２１から露出する位置まで設けられている。また、露出したジッパー部先端の切込線γには図示の如く３箇所に繋ぎ（切込線がない部分）が残るようにされている。さらに、蓋部前板２１と前方繋ぎ片３１の境界である折線ｋのところには円形孔２１ａが形成されており、これはカートンを組み立てた時に被せ蓋の前面下部に半円状の切欠を形成し、その切欠がジッパー１３ａにおける半円状の先端部と合わさって円形を呈するようにな

っている。

【００１４】

また、胴部側板１２の下辺には折線ｎを介して折曲げ片１６が連設され、胴部前板１３の下辺には折線ｏを介して胴部底板１７が連設され、胴部側板１４の下辺には折線ｐを介して折曲げ片１８が連設され、胴部後板１５の下辺には折線ｑを介して胴部内側底板１９が連設されており、胴部後板１５の上辺には折線ｒを介して蓋部連結板２０が連設されている。

【００１５】

このブランクＢは、連結部分Ｚを折線ｊ及び第２の弱め線βと折線ｋのところでＺ状に折り畳んでから全体をサック貼りする。すなわち、最初に、胴部の上に被せ蓋部分が重なるようにして連結部分ＺをＺ状に折り曲げ、前方繋ぎ片３１を第１の弱め線αより蓋部前板２１寄りの部分で蓋部前板２１と貼り合わせるとともに、側方繋ぎ片３２，３３をそれぞれ蓋部側板２３，２４と貼り合わせる。次いで、この重畳状態で胴部を折線ｂ，ｄのところで折り曲げて糊代フラップ１１の表側を胴部後板１５の端部裏側に貼り合わせる。

【００１６】

このようにサック貼りしたブランクＢを成形充填機に供給して図１の紙カートンＡに組み立てる。その手順は次のようである。まず、折り畳んだブランクＢを角筒状に起こした後、被せ蓋部分の折曲げ片２５，２６を内側に折り曲げた後、胴部後板１５の上辺に連設した蓋部連結板２０を内側に折り曲げてから蓋部天板２２を折り曲げ、蓋部天板２２の裏面を折曲げ片２５，２６と蓋部連結板２０に重ねてホットメルトなどでシールする。このように被せ蓋部分を成形した後、天地を逆にして、内容物を底部から充填した後、カートン底部の折曲げ片１６，１８を内側に折り曲げから、胴部内側底板１９と胴部底板１７を順に折り曲げて互いに糊貼りすることでカートンを成形する。これにより図１に示すフリップトップ型カートンＡが組み立てられる。なお、前方繋ぎ片３１と側方繋ぎ片３２，３３の間に開口があるので、連結部分Ｚを介して胴部と蓋部分を重ねても、上記のようにサック貼りしたり角筒状に起こしたりする操作が簡単に行える。

【００１７】

このフリップトップ型カートンＡを開封するに際しては、胴部前板１３にあるジッパー１３ａの先端部を指先で押し込んで切込線γの繋ぎを破断する。そして、そのまま指先を被せ蓋の前面下部にある半円状の切欠に掛けて被せ蓋を引き上げる。すると、第１の弱め線α及び第２の弱め線βを切断され、被せ蓋は図３に示すように胴部後板１５との境界にある折線ｒのところをヒンジ部として回動することで開封する。このようにして開封されたフリップトップ型カートンＡは、胴部前板１３の上辺に折返し片３１ａが突き出るとともに、蓋部前板２１の裏側には前方繋ぎ片３１の一部が欠けたことによる段差が生じているので、被せ蓋を前に倒すと、第１の弱め線αで切断された前方繋ぎ片３１が引っ掛かることによって被せ蓋が係止される。また、被せ蓋を引き上げるとこの引っ掛かりで外れることで被せ蓋を開けることができる。

【００１８】

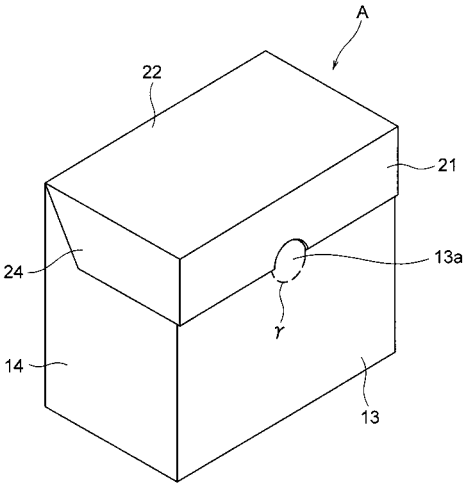
そして、開封後に再封した状態では、胴部前板１３のジッパー１３が破断されてしまっているので、図４に示すように、ジッパー１３が除去された半円状の部分と被せ蓋の前面下部にある半円状の切欠によりカートン正面に円形状の孔Ｈが開くことになる。したがって、上記のフラップ型カートンは、この孔Ｈの有無によりこのフリップトップ型Ａが一度開封されたものかどうかを一目で判断することができるので、改ざん防止機能が付与されたものとなる。また、破断されたジッパー１３は、被せ蓋側に残った前方繋ぎ片３１に連結しており、折線ｊの部分の復元力によって被せ蓋の裏側に向けて付勢されるので、ゴミになることもないし、開閉の邪魔になるようなこともない。

【００１９】

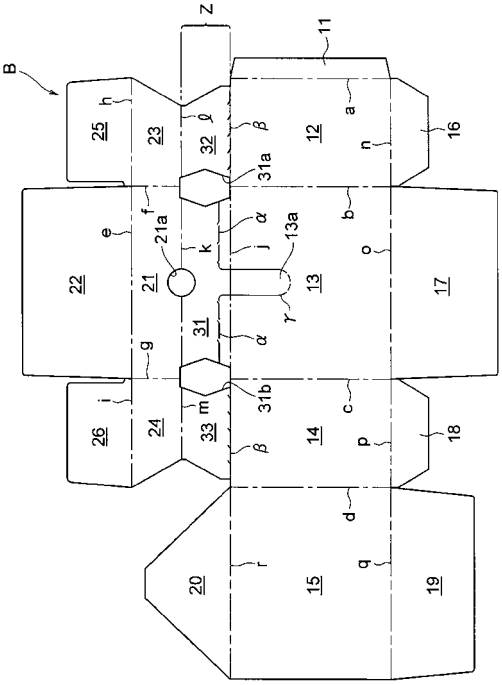
以上、本発明の実施の形態について詳細に説明してきたが、本発明によるフリップトップ型カートンは、上記実施の形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲において種々の変更が可能であることは当然のことである。

【図面の簡単な説明】
【００２０】
【図１】本発明に係るフリップトップ型カートンの一例を示す斜視図である。
【図２】図１のフリップトップ型カートンを形成するブランクの平面図である。
【図３】図１のフリップトップ型カートンを開封した状態で示す斜視図である。
【図４】図１のフリップトップ型カートンを再封した状態で示す斜視図である。
【符号の説明】
【００２１】
Ａ　紙カートン
Ｂ　ブランク
Ｚ　連結部分
ａ～ｒ　折線
α　第１の弱め線
β　第２の弱め線
γ　切込線
１１　糊代フラップ
１２　胴部側板
１３　胴部前板
１３ａ　ジッパー
１４　胴部側板
１５　胴部後板
１６　折曲げ片
１７　胴部底板
１８　折曲げ片
１９　胴部内側底板
２０　蓋部連結板
２１　蓋部前板
２１ａ　円形孔
２２　蓋部天板
２３，２４　蓋部側板
２５，２６　折曲げ片
３１　前方繋ぎ片
３１ａ，３１ｂ　開口
３２，３３　側方繋ぎ片

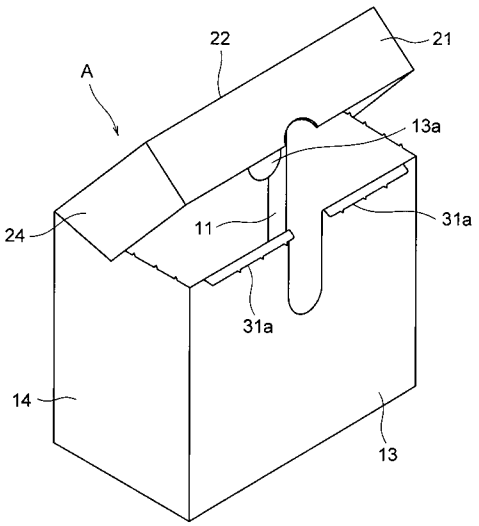
【図１】


A
22
21
24
13a
γ
14
13

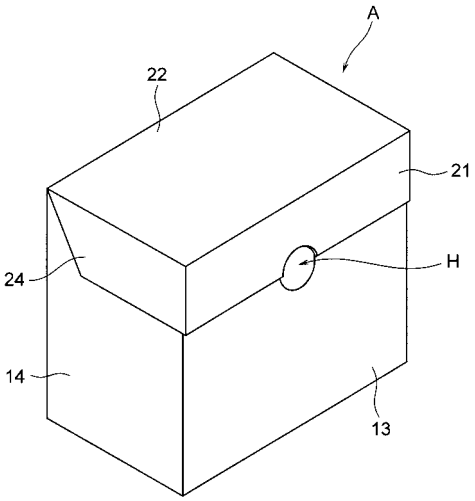
【図２】


B
Z
11
25
h
23
ℓ
32
β
12
a
16
n
31a
f
21a
α
13a
b
e
k
j
o
22
21
13
17
γ
31
α
g
31b
i
m
c
26
24
33
β
14
p
18
d
20
r
15
q
19

【図３】


22
21
A
13a
24
11
31a
31a
14
13

【図４】


A
22
21
24
H
14
13

フロントページの続き

(56)参考文献　特開２００１－１７１７３６（ＪＰ，Ａ）
実開平０３－０１７０３２（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５０－０２４５２５（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６０－１０５３２４（ＪＰ，Ｕ）
特開平０８－０７２８６５（ＪＰ，Ａ）
特開２００５－２０６１６８（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｂ６５Ｄ　　５／５４
Ｂ６５Ｄ　　５／６６